



第52回通常総会及び令和2年度優秀従業員定例表彰 開催…………… 2

9月9日、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を延期していた第52回通常総会及び令和2年度優秀従業員定例表彰を出席者を限定して開催。

事業報告及び決算の承認、役員の任期満了に伴う改選、常勤の理事の年間報酬総額の決定等の議案について審議が行われ、全議案承認されました。

役付理事選定理事会終了後、令和2年度優秀従業員定例表彰を挙行。会員企業より推薦された61名の方（46社）が表彰されました。



▲ 第52回通常総会

第53期（令和2年度）事業計画大綱…………… 3

役員名簿…………… 4



会員企業トップにインタビュー…………… 5

第22回目は、応用電機㈱（城陽市）に茶屋誠一社長を訪問。『「モノづくりが好きな人」が集まり、自分たちのやりたいことを実現するためにあるのが「応用電機」。社員の成長と共に会社が成長し、「オンリーワンの強み」を作りたい』と語り、来年には相模原工場に新社屋を建設するなど、成長を続ける同社の経営についてお話を伺いました。

◀ 茶屋誠一社長

富山県産業視察 報告…………… 6

国内各地の特色ある企業等を訪問する他府県産業視察として、本年度は富山県を訪問。ウォータージェット技術を応用し切断・洗浄装置等を製造する㈱スギノマシン、ファスナーや住宅用アルミサッシのリーディングカンパニー YKK㈱、富山売薬のブランドを守り続ける製薬会社の㈱広貫堂を視察しました。

スギノマシンにて▶



安全衛生委員会設立…………… 6

近年SDGs等の観点で従業員の安全や健康がより重要視され、労働安全衛生の専門性も高まっていることから、8番目の委員会として安全衛生委員会を設立、初回委員会を開催しました。

京都工業クラブ開催…………… 7

- 「ビジネスの価値を高めるデジタルトランスフォーメーション（DX）の進め方 ～トップの力が成功のカギ～」
- 「日立のリモートワークの取り組み
～新常態（ニューノーマル）の働き方に向けて～」
「テレワークの課題とソリューション
～テレワークの課題と解決方法とは？～」
- 「第4次産業革命に欠かせないビジネスデータ連携
～中小企業共通EDIの普及に向けて～」
- 「製造業の生産性向上を支援
～AI、ロボット、センサの融合で作業性・生産性を最適化～」
- 「2030年国内1兆円市場が期待される新材料
セルロースナノファイバーの魅力と課題」

事業活動報告

MI-net運営会議…………… 6

ものづくり白書説明会…………… 7

白鷺クラブ…………… 8

コロナ対策特別セミナー…………… 8

業務革新研究会…………… 8

IE（産業工学）研究会/VSM（流れづくり）研究会

叙勲・褒章の栄…………… 9

ご訃報…………… 9

新入会員ご紹介…………… 9

ゴルフ同好会（KIG）活動報告…………… 9

コロナをチャンスに～新しいニーズの開拓～（第2回）…………… 10

コロナ禍の中、会員企業における新製品の開発や経営面での新たな取り組みを紹介し、企業経営の参考、そして多くの会員企業に元気になって頂くことを目的に、「コロナをチャンスに～新しいニーズの開拓～」を掲載いたします。第2回目は、㈱クロスエフェクトの取り組みをご紹介します。

第52回通常総会及び令和2年度優秀従業員定例表彰を開催

9/9

9月9日(水)、第52回通常総会及び令和2年度優秀従業員定例表彰を京都ホテルオークラにて開催した。本総会及び表彰は6月開催予定を新型コロナウイルス感染症の影響により延期、当日も本会役員及び表彰受賞者と受賞者企業代表者のみ出席のもと開催した。14時30分より総会を開会、中本晃会長が開会挨拶を行った後、議長に選任され、議事に入った。当日の議案は次の通り。

第1号議案：第52期事業報告及び決算の承認の件

〈平成31年4月1日～令和2年3月31日〉

第2号議案：役員の任期満了に伴う改選の件

第3号議案：常勤の理事の年間報酬総額決定の件

第1号議案については、まず有馬専務理事が事業報告全般及び収支決算について説明。続いて、総務委員会・青山恵則委員長、企画委員会・一居多寿夫委員長、技術・教育委員会・洲崎智之委員長、中堅企業委員会・有馬専務理事（堀委員長代理）、中小企業委員会・岡本光三委員長、環境委員会・橋本裕治委員長、広報委員会・山下

文男委員長より各委員会の開催した事業について説明が行われた。そして監事4名を代表して河原耕嗣監事から会計監査の報告がなされ、満場一致で原案通り承認された。

第2号議案については、議長推薦という選任方法について出席者からの承認を受けた後、事務局がその推薦案を読み上げ、全員異議なく承認された。

第3号議案については、専務理事が常勤の理事の年間報酬総額決定について説明し、全員異議なく原案通り承認し、以上をもって滞りなく全議案の審議を終えた。

続いて報告事項として下記の件について専務理事が説明を行った。

(1) 第53期事業計画及び収支予算の報告の件

〈令和2年4月1日～令和3年3月31日〉

総会終了後役付理事選定理事会を開催し、会長に中本晃氏、副会長に武田一平氏、立石文雄氏、小畑英明氏、村尾 修氏、垣内永次氏、錦織 隆氏、片岡宏二氏、山岡祥二氏の9氏を再任した。（新役員名簿は4頁に掲載）

役付理事選定理事会終了後、16時30分から令和2年度優秀従業員定例表彰を挙げる。まず、中本 晃会長より式辞が述べられた後、当日ご出席の受賞者全員に会長より表彰状が授与された。続いて、来賓の京都府商工労働観光部 部長兼企画理事 鈴木一弥氏、京都市産業観光局 局長 山本達夫氏より祝辞をいただいた後、受賞者代表として島田崇司氏（㈱大日本科研）が謝辞を述べた。そ

して最後に、本会正副会長、来賓各位とともに記念撮影を行い、同表彰式を終えた。



〈受賞者名〉（46社61名）（以下敬称略）

㈱ イ シ ダ 上 仲 昭 広	島津エンジニアリング㈱	橋 屋 正	㈱ 日 進 製 作 所 波多野 暢
㈱ イ セ ト 一 小 林 達 也	島津システムソリューションズ㈱	前 田 よ し み	㈱ 日 進 製 作 所 林 あゆみ
㈱ イ セ ト 一 万 沢 邦 彦	㈱ 島 津 製 作 所 今 村 秀 一	日 新 電 機 ㈱ 岩 槻 真 範	日 新 電 機 ㈱ 村 田 敏 則
一 志 ㈱ 衣 斐 孝 行	㈱ 島 津 製 作 所 糸 多 正 行	日 新 電 機 ㈱ 村 田 敏 則	福 田 金 属 箔 粉 工 業 ㈱ 小 林 洋 信
尾 池 工 業 ㈱ 武 藤 直 樹	島津プレジジョンテクノロジー㈱	井 上 達 也	福 田 金 属 箔 粉 工 業 ㈱ 小 林 洋 信
大 阪 ガ ス ㈱ 村 上 賢 司	㈱ SCREEN ホールディングス	西 窪 宏 昭	福 田 金 属 箔 粉 工 業 ㈱ 小 林 洋 信
㈱ カ シ フ ジ 吉 川 浩 司	㈱ SCREEN セミコンダクターソリューションズ	橋 詰 彰 夫	㈱ 平 安 製 作 所 青 谷 清 和
㈱ 片 岡 製 作 所 味 田 浩 明	須 河 車 体 ㈱ 樋 上 信 一	㈱ 堀 場 製 作 所 岡 本 一 隆	三 菱 自 動 車 工 業 ㈱ 京 都 製 作 所 田 上 智 史
京 都 機 械 工 具 ㈱ 津 田 喜 樹	菅 原 精 機 ㈱ 吉 岡 直 樹	三 菱 自 動 車 工 業 ㈱ 京 都 製 作 所 田 上 智 史	三 菱 自 動 車 工 業 ㈱ 京 都 製 作 所 田 上 智 史
京 都 精 工 電 機 ㈱ 栗 原 篤 美	星 和 電 機 ㈱ 中 澤 嘉 之	三 菱 自 動 車 工 業 ㈱ 京 都 製 作 所 田 上 智 史	三 菱 自 動 車 工 業 ㈱ 京 都 製 作 所 田 上 智 史
ク ロ イ 電 機 ㈱ 小 林 勝	㈱ タイヨーアクリス	三 崎 人 史	三 菱 ロジスネクスト㈱ 春日屋真司
ク ロ イ 電 機 ㈱ 吉 田 雅 人	太 平 工 業 ㈱ 荒 木 章 江	三 崎 人 史	三 菱 ロジスネクスト㈱ 湯 口 信 吾
月 桂 冠 ㈱ 田 中 純 子	太 陽 機 械 工 業 ㈱ 石 垣 卓 志	三 崎 人 史	三 菱 ロジスネクスト㈱ 湯 口 信 吾
㈱ 工 進 森 田 美 紀	㈱ 大 日 本 科 研 島 田 崇 司	三 崎 人 史	三 菱 ロジスネクスト㈱ 湯 口 信 吾
サ ン コ ー ル ㈱ 小 川 剛	ト ク デ ン ㈱ 笠 井 一 則	三 崎 人 史	三 菱 ロジスネクスト㈱ 湯 口 信 吾
サ ン コ ー ル ㈱ 藤 江 晃	T O W A ㈱ 荒 木 晃 一	三 崎 人 史	三 菱 ロジスネクスト㈱ 湯 口 信 吾
㈱ 最 上 インクス 鈴 木 達 也	T O W A ㈱ 井 上 和 夫	三 崎 人 史	三 菱 ロジスネクスト㈱ 湯 口 信 吾
㈱ 佐 藤 製 作 所 山 口 崇	㈱ 藤 堂 製 作 所 奥 村 基 子	三 崎 人 史	三 菱 ロジスネクスト㈱ 湯 口 信 吾
三 和 化 工 ㈱ 新 沢 耕 一	㈱ 富 永 製 作 所 福 井 智	三 崎 人 史	三 菱 ロジスネクスト㈱ 湯 口 信 吾
㈱ G S ユ ア サ 山 本 淳	ニ チ コ ン ㈱ 石 田 雅 彦	三 崎 人 史	三 菱 ロジスネクスト㈱ 湯 口 信 吾
㈱ G S ユ ア サ 太 田 剛 臣	ニ チ コ ン 亀 岡 ㈱ 浅 井 浩 之	三 崎 人 史	三 菱 ロジスネクスト㈱ 湯 口 信 吾

((出向) ㈱リチウムエナジージャパン)

令和2年度（第53期）事業計画大綱

令和2年4月1日～令和3年3月31日

【本年度の重要テーマ】

1. オープンイノベーションの推進
2. 人材育成事業の新たな展開
3. 働き方改革、生産性改革の促進

★ 新規事業 ★ 重点事業

1 会の組織強化と会員相互の交流促進

- 1) 総会、理事会、正副会長会議等の開催 …… 随時
- 2) 委員会活動の推進 …… 随時
- 3) 広報・会員サービス活動の実施 …… 随時
- 4) 会員の拡大 …… 年間
- 5) 鳶の会、白鷺クラブ、ゴルフ同好会（KIG）の運営開催 …… 随時
- 6) 京都工業クラブの開催 …… 12回/年
- 7) 新春交歓会の開催 …… 定例
- ★8) ホームページ掲示板機能による情報交換 …… 随時
- ★9) 遠隔研修等の環境整備 …… 随時
- 10) Web登録機能を活用した各種事業への参画促進 …… 随時

2 経営・業務革新の促進と人材育成

- 1) 大会・セミナー・視察・見学
 - ア. 第23回 京都KAIZEN大会の開催 …… 1回/年
 - イ. 第15回 京都TQMフォーラムの開催 …… 1回/年
 - ウ. 購買管理特別講演会の開催 …… 1回/年
 - エ. 経営革新セミナーの実施 …… 随時
 - オ. ISO9001・ISO14001内部監査員養成セミナーの開催 …… 随時
 - カ. 他府県産業視察 …… 1回/年
 - キ. 生産革新工場見学会の開催 …… 4回/年
 - ク. 課題対応型セミナー
 - ★「イノベーションマネジメントシステム構築セミナー」の開催 …… 1回/年
 - ★ケミカルセミナーの開催 …… 1回/年
 - ★RPA構築セミナーの開催 …… 1回/年
 - サイバーセキュリティ対策セミナーの開催 …… 1回/年
 - モノづくりモチベーションアップセミナーの開催 …… 1回/年
 - 業務改善のためのアイデア発想セミナー …… 4回/年
- 2) 経営管理懇話会（管理者対象）
 - ア. R&D問題懇話会の開催 …… 6回/年
 - イ. 生産問題懇話会の開催 …… 7回/年
 - ウ. 購買・資材問題懇話会の開催 …… 7回/年
 - エ. 人事労務問題懇話会の開催 …… 6回/年
 - オ. 経理問題懇話会の開催 …… 6回/年
 - カ. 監査部門懇話会の開催 …… 6回/年
 - キ. 品質保証懇話会の開催 …… 6回/年
 - ク. 経営企画戦略会議21の開催 …… 8回/年
 - ケ. 女性活躍推進懇話会の強化 …… 4回/年
- 3) 業務革新研究会（若手社員～中堅実務者対象）
 - ア. 品質革新研究会の開催 …… 10回/年
 - イ. 生産管理（TOC）研究会の開催 …… 10回/年
 - ウ. 購買調達革新研究会の開催 …… 10回/年
 - エ. VE（開発・設計革新）研究会の開催 …… 10回/年
 - オ. IE（産業工学）研究会 …… 10回/年
 - カ. VSM（流れづくり）研究会の開催 …… 10回/年
 - キ. 生産保全（TPM）研究会の開催 …… 10回/年
 - ク. 生産現場リーダー力強化研究会の開催 …… 10回/年
 - ケ. 良いモノづくりの為に女性の会の強化 …… 4回/年
- 4) 特定分野研究会等
 - ア. 知的財産権研究会の開催 …… 10回/年
 - イ. 情報通信懇話会の開催 …… 随時

- ウ. テクノロジー&マネジメント研究会の開催 …… 14回/年
- エ. 生産革新（TPS）徹底実践研究会の開催 …… 1回/年
- オ. グローバルQCD研究会の開催 …… 2回/年
- カ. モノづくり革新道場の充実及び特別合宿研修会の開催 …… 6回/年
- キ. 新入社員等若手社員を対象とする「モノづくりベーシック講座」の開催 …… 4回/年
- ク. IoT研究会の開催 …… 5回/年
- ケ. AI研究会の開催 …… 5回/年
- 5) 女性の活躍による企業活力強化支援 …… 随時
- 6) 京都高等技術・経営学院（若手技術者対象）… 随時
 - ア. 研究科：電子システム研究科
メカトロニクス研究科
 - イ. 本 科：機械設計課程
機械製図課程
 - ★材料技術講座
技術スクール（機械加工技術コース）
管理スクール（生産管理コース、現場改善コース、コストダウンコース、FMEA・FTAコース）
 - ★ライフサイエンス講座
 - ★AIソフト人材育成講座

3 オープンイノベーション推進による新産業・新事業創出

- ★1) オープンイノベーションの創出に向けた取り組み …… 随時
- ★2) 「モノづくりフォーラム」の開催 …… 1回/年
- ★3) 「イノベーションマネジメントシステム構築セミナー」の開催（再掲） …… 1回/年
- ★4) 京都知恵産業創造の森との連携 …… 年間

4 経営グローバル化の推進

- 1) 海外産業視察団の派遣 …… 1回/年
- 2) 「京都海外ビジネスセミナー」の共同開催 …… 1回/年
- 3) ジェトロ京都貿易投資情報センターとの連携 …… 随時
- 4) 海外経済団体との交流 …… 随時

5 中堅・中小企業の振興

- 1) 生産革新工場見学会の開催（再掲） …… 4回/年
- 2) 中小企業見学会の開催 …… 6回/年
- 3) 中小企業技術幹部交流会の開催 …… 6回/年

6 地球環境の保全と環境経営の推進

- 1) 京都環境管理研究会の開催 …… 7回/年
- 2) 環境マネジメントシステム（ISO14001及びKES）の推進 …… 年間
- 3) 環境関連課題の動向調査と研究 …… 年間
- 4) 環境関連3団体、その他外部団体との協働 …… 年間
- 5) 第46回 関西環境管理者交流会 …… 1回/年

7 労働安全衛生の推進

- ★1) 安全衛生委員会の新設 …… 年間
- 2) 労働安全衛生研究懇話会の開催 …… 7回/年

8 地域産業の活性化

- 1) 国・京都府・京都市等関係行政機関との連携 …… 随時
- 2) 京都経済団体協議会との協調 …… 随時
- 3) 府内・外関係経済団体との協調 …… 随時
- 4) 京都知恵産業創造の森との連携（再掲） …… 随時
- 5) 環境関連3団体との協調（再掲） …… 随時
- 6) 青少年と科学の会への支援及び京のエジソンプログラムの推進 …… 随時
- 7) 北部地域産業界との連携 …… 随時
- 8) 要望活動 …… 随時

9 京都工業会館跡地の有効活用

令和2年度 公益社団法人 京都工業会 役付役員名簿

※印＝新任理事・役員

(令和2年9月9日、敬称略)

会 長	中 本 晃	(株) 島 津 製 作 所	会 長	常任理事	増 山 晃 章	星 和 電 機 (株)	社 長
副 会 長	武 田 一 平	ニ チ コ ン (株)	会 長		※ 三 浦 一 郎	大 阪 ガ ス (株)	執行役員 京滋地区総支配人
	立 石 文 雄	オ ム ロ ン (株)	会 長		※ 村 田 大 介	村 田 機 械 (株)	社 長
	小 畑 英 明	日 新 電 機 (株)	会 長		村 田 恒 夫	(株) 村 田 製 作 所	会 長
	村 尾 修	(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション	社 長		山 口 悟 郎	京 セ ラ (株)	会 長
	垣 内 永 次	(株)SCREENホールディングス	会 長		山 口 進	(株)川島織物セルコン	会 長
	錦 織 隆	(株) 日 進 製 作 所	会 長	理 事	安 藤 源 行	(協)日新電機協力会	理 事 長
	片 岡 宏 二	(株) 片 岡 製 作 所	社 長		井 上 哲 次	京 都 精 工 電 機 (株)	会 長
	山 岡 祥 二	(株) 山 岡 製 作 所	会 長		※ 今 岡 俊 成	朝 日 レ ン ト ゲ ン 工 業 (株)	社 長
顧 問	田 中 千 秋	元 日 本 電 池 (株)	京都工業会 元 会 長		上 野 山 寛 次	上 野 山 機 工 (株)	社 長
	矢 嶋 英 敏	(株) 島 津 製 作 所	京都工業会 元 会 長		大 蔵 浩 二	(株) 富 永 製 作 所	社 長
	服 部 重 彦	(株) 島 津 製 作 所	京都工業会 元 会 長		金 井 進	(公 社) 京 都 工 業 会	理 事 局 長
	依 田 誠	(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション	京都工業会 前 会 長		川 口 剛 史	(株) 日 本 ジ ョ イ ン ト	社 長
専務理事	有 馬 透	(公 社) 京 都 工 業 会	専務理事		古 賀 昌 信	大 日 本 印 刷 (株)包装事業部	副事業部長
常任理事	足 立 正 之	(株) 堀 場 製 作 所	社 長		小 林 剛 一	日 本 電 気 化 学 (株)	社 長
	尾 池 均	尾 池 工 業 (株)	社 長		阪 口 雄 次	(協)京都府金属プレス工業会	理 事 長
	大 倉 治 彦	月 桂 冠 (株)	社 長		里 村 和 樹	宇 治 電 器 工 業 (株)	社 長
	大 下 実	(株) イ シ ダ	取 締 役		島 田 理 史	(株) 菊 水 製 作 所	社 長
	岡 田 博 和	T O W A (株)	社 長		須 河 進 一	須 河 車 体 (株)	社 長
	岡 本 光 三	(株) 大 日 本 科 研	会 長		※ 洲 崎 章 弘	京 都 府 鋳 物 工 業 (協)	代表理事
	小 倉 勇	(株) た け び し	社 長		鈴 木 三 朗	(株) 最 上 イ ン ク ス	相 談 役
	柿 本 敏 男	宝ホールディングス(株)	相 談 役		鈴 木 順 也	N I S S H A (株)	社 長
	檜 藤 達 郎	(株) カ シ フ ジ	社 長		瀬 川 晋 弘	旭 光 精 工 (株)	社 長
	加 藤 照 男	太 平 工 業 (株)	社 長		津 田 雅 彦	関 西 電 力 送 配 電 (株)	執行役員 京都支社長
	河 村 一 二	第 一 工 業 製 薬 (株)	取 締 役		根 來 紀 行	(株) 松 風	社 長
	小 原 勉	(株) 工 進	会 長		橋 本 進	(株) 京 都 製 作 所	会長兼CEO
	材 木 正 己	日 東 精 工 (株)	社 長		※ 藤 永 清 恵	(株) 森 川 製 作 所	社 長
※	神 徳 浩 久	三菱自動車工業(株)京都製作所	所 長		※ 丸 田 英 治	日 本 た ば こ 産 業 (株)	理 事 局 長 関西工場工場長
	砂 崎 達 哉	(株) 砂 崎 製 作 所	社 長		水 主 吉 彦	太 陽 機 械 工 業 (株)	社 長
	園 田 修 三	福 田 金 属 箔 粉 工 業 (株)	社 長		山 中 泰 宏	旭 金 属 工 業 (株)	社 長
	竹ノ内壯太郎	三 和 研 磨 工 業 (株)	社 長		山 主 千 尋	サ ン コ ー ル (株)	相 談 役
※	橘 昭 文	(株) モ リ タ 製 作 所	社 長		山 本 正	丹 後 機 械 工 業 (協)	理 事 長
※	田 中 滋	京 都 機 械 工 具 (株)	社 長		吉 田 典 生	三 和 化 工 (株)	社 長
	塚 本 能 交	(株)ワコールホールディングス	会 長				
	津 田 幸 平	津 田 電 線 (株)	社 長				
	二ノ宮秀明	三菱ロジスネクスト(株)	シニアアド バイザー	監 事	佐 藤 博 文	エ ン ゼ ル 工 業 (株)	会 長
	廣 地 厚	グ ン ゼ (株)	社 長		澤 田 守 成	(株)パックス・サワダ	会 長
	堀 英 二 郎	(株) ホ リ ゾ ン	社 長		中 野 秀 紀	明 光 精 器 (株)	社 長
	前 川 重 信	日 本 新 薬 (株)	社 長		※ 牧 野 稔	サ ン エ ー 電 機 (株)	社 長

■会員企業トップにインタビュー 〈22〉

やりたい仕事で社会に貢献!

～モノづくりを通して、社員と会社が共に成長～

応用電機株式会社プロフィール
 創 業：昭和35年(1960年)
 資本金：72,212,000円 従業員：582名
 住 所：京都府城陽市平川中道表63-1
 (拠点工場：京都・熊本・浜松・相模原)
 業 種：計測制御機器、メカトロニクス機器
 の開発、設計、製造

応用電機株式会社

代表取締役社長 茶屋 誠一氏

「一人ひとりが、日々ベストを尽くす!モノづくりの品質、納期でお客様に満足を届け続け、会社も社員も成長を積み重ねてきました!」と語る、同社の茶屋社長にお話を伺いました。

— 会社はどのように成長して来られたのですか？

先代が、手先が器用だったので電子機器の組立をする、いわゆる電気屋として創業しました。私は2代目で、約3年の会社勤めを怪我が元で退職し、半年ほど世界中をバックパッカーとして旅した後、今の会社に入社しました。自分では意識していなかったのですが、周りからは後継者として見られ、それに応えるため必死で働くようになっていました。入社当時は、プリント基板の実装や組立配線を行っている会社でしたが、設計からの受注を増やしていくうちに、「メカの部分もやってくれないか」とお客様から依頼されることが増え、銀行から後継者がいない大阪の包装機械メーカーを紹介され、M&Aでメカ部分もできる体制が整いました。その後、板金・機械加工、ソフトウェア製作等も内製化し、拠点が広がるに連れて事業が拡大してきました。今では、設計から部品調達、製造、開発、保守まで一貫して社内に対応しています。また、新規先はお客様からの紹介がほとんどで、仕事が増えるのに従い会社も自然と大きくなってきました。

— 新型コロナウイルスの影響は？

熊本工場を中心に半導体関係が好調で、影響を最小限に抑えられています。今は影響を受けた自動車関連も動きが出てきており、底を打ったのではないかと感じています。コロナ対策を考える中で発見したのですが、プリント基板の実装ラインで、静電気を抑えるために高性能加湿器を使用しているフロアでは、インフルエンザに罹る社員がほとんどいなかった事に気づき、コストはかかるのですが、予防策として他のフロアにも順次同じ加湿器を設置しています。それと余談ですが、飲みに行く機会が無くなり、私の血液検査の数値が初めて「全て問題無し」の健康体になりました。

— 医療機器「超音波骨密度計」を製造されていますが、その開発経緯を教えてください

同志社大学で超音波を研究している先生が、骨粗しょう症の診断に使えるのではないかと考え、診断機の製造について京都の大先輩を通じて相談がありました。超音波も電気も同じ「波」なので、当社の強みを活かして試行錯誤を重ね、高感度センサとアルゴリズム解析により、骨密度だけでなく海綿骨の厚みや弾性率などX線では測ることができない部分まで計測する、世界初の装置を作ることができました。高額なため一般ではまだ利用

されていませんが、フランスに1台、日本でも十数台が大学の研究室で使用され論文の発表に貢献しています。

本社工場



— 御社の強みはどこですか？

自社ブランド製品としては、「超音波骨密度計」とスマホ等で使用されるレンズから入った光を電気信号に変換する半導体(イメージセンサー)の検査に必要な「光源装置」の2つだけで、それ以外はすべて受託生産です。電気、メカ、関連するシステムやソフトの設計から製作まで全て自社で行うことができ、さらに受発注はもちろん、設計から製造、社内決裁に至るまで全て自社開発の社内システムで管理し、正確で品質の良い製品を短納期で仕上げます。また、設備関係の仕事は受注に山と谷がありバランスを取るのが難しいのですが、当社では国内4か所の事業所がそれぞれ顧客を持ち、繁忙期には他の拠点がカバーして平準化することが可能です。

— 生産性向上について特に取り組んでいることは？

当社の業務は手作業が多いため、従業員の作業効率を上げることが第一です。お客様とのコミュニケーション、各工程のチームワーク、熟練化、プロフェッショナル化が欠かせません。部門別の技術研修や自主研修への支援制度を整え、特に品質の基本である「5S」については、「耳タコセミナー」として体が覚えるまで何度でも研修を繰り返します。また設備については、最新機種を導入し機械ができることは機械に任せています。本社工場は1年半前に増築、浜松工場も大型ライン・装置が製作可能な新しい建屋が完成し、社員が働きやすい環境を順次整えています。

— 今後の抱負についてお聞かせください

来年、相模原工場に新社屋を建設し、首都圏の業務を拡大して4拠点のバランスを整えます。「モノづくりが好きの人」が集まり、自分たちのやりたいことを実現するためにあるのが「応用電機」です。会社が大きくなると大きな仕事も依頼され、今まで経験の無い新しいことに挑戦するチャンスが出てきます。社員の成長と共に会社が成長し、「オンリーワンの強み」を作りたいですね。



浜松工場航空写真

「富山」産業視察開催報告

10月22日(木)～23日(金)、中本会長を団長とする18名で、富山県を視察訪問した。

見学先はウォータージェット技術の応用し切断・洗浄装置等を製造する(株)スギノマシン、ファスナーや住宅用アルミサッシで大きなシェアを誇るYKK(株)、明治の初めに売薬業者の共同出資により設立され、富山売薬のブランドを守り続ける製薬会社の(株)広貫堂等で、富山県の製造業の魅力と底力を学ぶ有意義な視察となった。各訪問の概要は次の通り。

■(株)スギノマシン 草月事業所(富山県滑川市)

創業：1936年3月、資本金：23億2,467万円

従業員：1,650名、連結売上高：349億円

最初に社長の杉野良暁氏から、歓迎挨拶に続き同社の創業以来の歴史、現在の事業内容について説明頂いた。

同社は、1936年、蒸気機関車のボイラ配管内部に固着する缶石(スケール)を取り除くためのチューブクリーナーを水圧と空気を動力源にカッターヘッドを回転させる方式で製品化に成功。これをコア技術として発展させ、現在では、「切る」「削る」「洗う」「磨く」「砕く」「解す」の6つの技術に拡げて事業化。特に、「切る」技術では水を最高6,000気圧まで加圧し、直径0.1mmのノズルから噴射することにより、自動車のバンパーや内装材、コンクリート構造物、食品、航空機用特殊素材などの切断が可能に。また「洗う」技術は、自動車のエンジンやトランスミッションの部品のバリや切りくずを高圧水で洗浄・除去。世界の多くの自動車部品に利用され、新車の慣らし運転やオイル交換が不要となった。

続いて取締役常務執行役員の尾島弘行氏と生産統括部第一技術部長の三辺征夫氏の案内で、展示された製品に触れながら6つの技術を解説頂くとともに、切削作業の見学やウォータージェットカッターでの段ボールの切断を体験させて頂き、優れた技術を実感した。



(株)スギノマシンにて

■YKK(株) センターパーク(富山県黒部市)

創業：1934年1月、資本金：119億9,240万円

従業員：46,167名、連結売上高：7,328億円

YKKセンターパークを運営する黒部ツーリズム(株)社長の水島悟司氏の案内で、映像や機械類、製品等の展示によりYKKグループのファスナーや建材等の製造技術や歴史、経営理念の説明を受けた。特に、創業者・吉田忠雄氏によるYKK精神、「善の巡環・他人の利益を図らずして自らの繁栄はない」を事業の基本として、常に新しい価値を創造することによって事業の発展を図り、取引先の繁栄と社会貢献に努めていること等について説明を受けた。



YKKセンターパークにて

■廣貫堂資料館(富山市)

(株)広貫堂は、明治9年、売薬業者の共同出資により製薬会社として設立されて以来「反魂丹」「六神丸」などの富山売薬のブランドを守り続けている。同資料館では、登録販売者の井上仁子氏から、「用いることを先にし、利益は後から」とした富山売薬の基本理念「先用後利」についての説明や行李や調剤道具など売薬に関する展示やデータベースのはしりともいえる顧客管理簿や得意先台帳である「懸場帳」についての解説を受けるなど、充実した視察会となった。



廣貫堂資料館にて

安全衛生委員会の設立

本年度、京都工業会は8番目の委員会として安全衛生委員会を設立、10月に初回委員会を開催した。京都工業会では平成12年に環境委員会のもとで「労働安全衛生マネジメントシステム研究会」をスタート、後に「労働安全衛生研究懇話会」と改称し労働災害防止や健康管理等に関する情報交換を行って来たが、近年はSDGs等の観点で従業員の安全や健康がより重要視され、また国際規格ISO45001が制定されるなど労働安全衛生の専門性もより高まっており、課題に適切に対応して関連事業を充実するために専門の委員会を設立することとした。

平成2年の広報委員会設立以来30年振りの新設委員会となったが、会員11社から委員を派遣いただき、10月15日に第1回の委員会を開催した。

委員会では、委員長として(株)SCREENホールディングス CSR推進室副室長 島田清孝氏、副委員長として京都機械工具(株)ものづくり技術本部製造部部長 大塩秀幸氏が選出され、続いて各委員から安全衛生活動の現状や課題が紹介された。労働災害低減のため安全文化醸成や安全意識の浸透などが課題であり、指導方法、社内体制など様々な観点から対応されている各社の状況が紹介され、活発な意見交換が行われた。関連事業の報告の後、今後は掲示板を利用しての情報交換も含め、各社の労働安全衛生活動に役立つ議論を委員会で進めていくという方針がとりまとめられた。

MI-net(モノづくりイノベーションネットワーク) 運営会議の開催

9/3

昨年11月から本格運用を開始した「モノづくりイノベーションネットワーク(MI-net)」は、現在では39社202名のエンジニアと9大学が会員登録しており、大学からの最新のシーズ情報を会員向けに直接配信するシステムとして稼働している。立ち上げから約1年が経過し、同ネットワークの更なる活用を目指して9月3日に運営会議を開催し、企画委員会と技術・教育委員会の正副委員長と企業と大学の本ネットワーク担当者にお集まりいただき、オブザーバとして支援機関の関係者の皆様方にも参加いただいてMI-netの更なる活性化を目指した改善策について議論を行った。会議に先立ってMI-netの使用状況や改善要望についての会員アンケートを実施して現状把握を行なった上で、会議ではMI-netで最重要課題となっているシーズ投稿量を増加させるための効果的な施策の検討や、会員から要望の多い「スタートアップ等からのBtoBイノベーション情報のMI-netへの取込み」について活発な議論が行われた。議論した活性化施策を実現すべく、関係機関と協力して取り組んで行く。

第638回 京都工業クラブ

7/27

「ビジネスの価値を高めるデジタルトランスフォーメーション (DX)の進め方 ～トップの力が成功のカギ～」

京都大学 経営管理大学院 教授
原 良憲氏

講演では、デジタルトランスフォーメーションの定義、製造業における導入事例等の紹介がなされ、最後に導入の際の留意点として、●企業風土・マインドセットの変革 ●DX人材の育成・確保 ●投資回収の理解 ●丸投げせずBuzzwordに踊らされない技術革新トレンドの理解 を挙げられた。急速に進展するデジタル技術のビジネスへの導入について理解を深める例会となった。



第639回 京都工業クラブ

8/21

「日立のリモートワークの取り組み ～新常態 (ニューノーマル) の働き方に向けて～」

(株)日立製作所 関西支社 総務部部長代理
内山 英昭氏

「テレワークの課題とソリューション ～テレワークの課題と解決方法とは?～」

(株)日立システムズ 関西支社 戦略企画部部長
梅田 剛志氏

講演では、まず内山氏より、1999年より導入して来られた同社のリモートワークが今回のコロナ禍により適用が拡大された現状、そしてそれに伴う各種課題、特に「人材マネジメント」について紹介された。続いて梅田氏より、テレワークにおける課題、メリット、実現に向けての提案、更には製造業の現場業務のデジタル化の紹介等がなされ、多くの企業が直面するテレワークの導入・活用に向けて参考となる例会となった。



第640回 京都工業クラブ

9/25

「第4次産業革命に欠かせないビジネスデータ連携 ～中小企業共通EDIの普及に向けて～」

明治大学 経営学部 教授
岡田 浩一氏

講演では、まず我が国の労働生産性や中小企業の現状について説明された後、第4次産業革命への対応として注目を集めている中小企業共通EDIについて、中小企業庁による実証事業や同EDIを利用した具体的な効率化のイメージなどが紹介された。日本では守りのIT投資が多いが、「攻めの意識」「導入後の青写真」が必要と述べられ、これからの経営に向けて参考となる例会となった。



第641回 京都工業クラブ

10/9

「製造業の生産性向上を支援 ～AI、ロボット、センサの融合で作業性・生産性を最適化～」

(国研)産業技術総合研究所 情報・人間工学領域 研究戦略部長
河井 良浩氏

講演では、情報・人間工学領域の中でもサイバーフィジカルシステムに関する研究開発について取り上げられた。人と協調する人工知能 (AI)、ロボット、センサ等を融合した技術の研究開発を推進し、製造業を中心とした労働生産性向上、技能の継承・高度化に寄与することをめざすインダストリアルCPS研究センターと同センターで行われている研究を中心に紹介がなされ、産総研の活動や最新技術の動向に理解を深める例会となった。



第642回 京都工業クラブ

10/19

「2030年国内1兆円市場が期待される新材料 セルロースナノファイバーの魅力と課題」

京都大学 生存圏研究所 生物機能材料分野 教授
矢野 浩之氏

講演では、植物由来で環境負荷が低く、再生産可能な究極のグリーン材料「セルロースナノファイバー (CNF)」について、その性能や特長、課題 (パルプのナノ化コスト)、そしてその課題克服に向けた製造方法「京都プロセス」 (パルプ直接混練法) 等が紹介された。CNFで試作した部材を使った、木からつくったミライのクルマ・ナノセルロースヴィークルの動画も流されるなど、「夢の新素材」について学び、期待を感じる例会となった。



2020年版 ものづくり白書説明会を開催

10/15

参加者：28名 (オンライン開催)

テーマ：2020年版ものづくり白書「概要」

講師：経済産業省製造産業局 ものづくり政策審議室

係長 山本 太郎 氏

本会の「白鷺クラブ」と共催し、「2020年版ものづくり白書説明会」を開催した。

毎年公表されている「ものづくり白書」は、「ものづくり基盤技術振興基本法」に基づく法定白書で、経済産業省や厚生労働省、文部科学省の3省の共同で作成され、ものづくり産業の抱える課題や展望について報告しており、製造業にとって大変有益な情報が掲載されている。白書編纂に関わった経済産業省の方から直接お話を伺える貴重な機会となった。(下記、講演要旨)

ものづくり企業の現状と今後の方向性

日本の製造業はサプライチェーンのグローバル化を促進したが、年々高まる地政学リスク等の「不確実性」の高まりは、サプライチェーン再編の引き金となり、新型コロナウイルスで顕在化することになった。企業は、変化に対して俊敏・柔軟に対応する企業変革力 (ダイナミック・ケイパビリティ) を高める必要があり、デジタル化は企業変革力を飛躍的に高める有力な手段である。全社的な経営方針・目標の共有と、それに基づくDXの推進、サプライチェーンのみならず、企画研究、製品設計、工程設計のエンジニアリングチェーンのデジタル化を徹底することが大切であり、継続的にデジタル改革に取り組んでいくための人材の確保や仕組みの構築が欠かせない要素である。

白鷺クラブ 活動レポート

9月例会 開催報告

9/10

参加者：17名（会場11名 ズーム6名）

講演会：テーマ 分業制スポーツにおける組織論 ～自分で考える力～

講師 関西学院大学体育会 アメリカンフットボール部FIGHTERS
前監督 鳥内 秀晃 氏

鳥内前監督は、指導者として甲子園ボウル出場15回、優勝12回、ライスボウル優勝1回などの輝かしい成績を収め、また、2016年には、世界大学選手権日本代表チームも指揮され、本年1月、関西学院大学アメリカンフットボール部監督を退任された。現在は、スポーツを通じた人間形成の経験を活かし、教育理念や実践法を啓発されている。



鳥内前監督

講演では、「まずは選手との話し合いを重ね、チームと個々人それぞれの目標設定を行う。メンバー全員のベクトルを合わせ、期限を明確に決め、できるだけ細かな計画を作りPDCAを徹底することが大切。また、指導する側は『聞く耳』を持ち、答えを与えず選手とのコミュニケーションを密に取る。選手は失敗を経験しながら、『なぜ失敗したのか』を考えるとというサイクルを回し、忍耐強く続けることで『自主的に行動することの大切さ』を学んで行く。監督の理想にはめ込まず、それぞれの選手にふさわしいコーチングを行う事で、個人の成長と強いチーム作りを行ってきた。」と熱く語られた。

強いチームを作るためにどのように人を育てチーム作りを行ってきたのか、会社の組織作り、人材の育成にもつながる、貴重なお話を伺う絶好の機会となった。

コロナ対策特別セミナーを開催

9/11

今、世界中でコロナウイルス感染拡大の猛威が続く中、産業界においては、グローバルベースのSCMが大きな影響を受けると共に、ウィズコロナ、アフターコロナを背景にした新たなモノづくり戦略への対応が求められている。そこで、本会ではこれらの対応策の一考とすべく、「コロナ対策特別セミナー」を16名の参加者を得て開催した。

まず、(株)Goldratt Consulting Japan パートナー 飛田 甲次郎氏（元オムロン(株)）が、TOC（制約条件理論）に基づき、経営活動全体のつながりとばらつきに着目し、その中に存在する全体の制約に集中的な対策をとって欲しいと解説され、続いて、Office Mimura 代表 三村光昭氏（元(株)ノーリツ）が、SCMは経営活動の根幹を支える活動であることから、ウィズコロナにおいては、今まで以上にグローバルリスクを考えたSCMの構築とマルチソース化等による新たなBCPにも取り組んでいただきたいと述べられた。

最後に関ものづくり研究所 代表 関 伸一氏（元(株)ローランドディージー）が、デジタル技術が大きく進化した今こそ、部門間の垣根を取り払い、製品開発力の強化（フロントローディング）に取り組んでいただきたいと述べられた。

◆業務革新研究会 活動紹介

本会の基幹事業の1つである業務革新研究会(8研究会)は、今年度の活動は、8月4日(火)より研究会ごとに順次活動を開始した。

各研究会、午前より開催し、まずは、研究会活動の説明を行ない、その後、相互自己紹介、研究会活動の年度方針の検討、前期カリキュラムの検討を行った。午後からは、各アドバイザーから基調講演やそれに基づく活発な討議等が行われた。

以下、主な活動概要を紹介する。

【IE（産業工学）研究会】（8月4日）

「IE手法を取得し、事例を研究」として年度方針を掲げ活動をしているIE（産業工学）研究会では、アドバイザー 吉植久正氏(NPSソリューション代表)より、「IEの基本的な考え方」を基調講演として行っていただいた。

【講義内容（抜粋）】

◇IEとは

Industrial Engineeringの略で原材料（Material）、機械・設備（Machine）、人（Man）、方法（Method）、管理（Management）の5Mの最適な組合せによる「モノづくりシステム」を構築するもの

◇IEの6つの役割

IEの目的は、付加価値の増大策であり、下記の6つの管理指標の改善がIEの役割

- ① P（Productivity）……………生産性
- ② Q（Quality）……………品質
- ③ C（Cost）……………原価
- ④ D（Delivery）……………量・納期
- ⑤ M（morale）……………モラル
- ⑥ S（Safety）……………安全

【VSM（流れづくり）研究会】（9月24日）

「モノと情報の流れづくりによる全体最適化」を年度方針として活動をしている、VSM（流れづくり）研究会では、アドバイザー 香川博昭氏（香川改善オフィス代表）より流れづくりとして演習を行い、ビデオにて作業の分析を行った。

【講義内容（抜粋）】

◇ビデオ分析の進め方

ビデオ分析：現場で稼働の現状を掴む

- ① 現場把握（ビデオ撮影）
- ② 作業（ムダ、ロス）分析
運搬、動作、手待ち、切替え、故障、材料待ち 等
- ③ 見える化（グラフ化）

◇作業分析

- ① 要素作業に分割して、作業時間を測定する
- ② 要素作業を仕分ける

付加価値を付ける作業（加工）、付加価値を付けない作業、（積替え、移動、運搬 等）、ムダ（手待ち 等）

- ③ 結果をパレート図やグラフにまとめて改善課題を明確化する

No.	要素 作業	作業 時間 (分)	作業			ムダ
			付加価値 作業	付加価値を 付けない作業		
			加工	積替え	移動	

叙勲・褒章の栄

本年度の秋の叙勲・褒章が発令され、本会関係では次の4氏がその栄に輝かれました。
会員の皆様とともに、心よりお祝い申し上げます。



旭日小綬章御受章

福田 健氏

(福田金属箔粉工業(株) 会長)



旭日双光章御受章

小原 勉氏

((株)工進 会長)



藍綬褒章御受章

大倉 治彦氏

(月桂冠(株) 社長)



藍綬褒章御受章

土井 伸宏氏

((株)京都銀行 頭取)

訃報



渡邊 壯氏

(松下精機(株) 会長)

(平成10年5月～令和2年9月まで
本会理事)

9月9日、ご逝去されました。

(享年87歳)

小島 久壽氏 (コフロック(株) 会長)

9月3日、ご逝去されました。(享年77歳)

ここに、会員各位とともに謹んで哀悼の意を表します。

賛助会員

KPMG税理士法人 京都事務所

京都事務所長・パートナー 水野 正夫

〒600-8216 京都市下京区塩小路通西洞院東入
東塩小路町843-2

日本生命京都ヤサカビル7F

TEL.075-353-1270 FAX.075-353-1271

税理士業務(国内税務・国際税務・移転価格税制等)

(株)マイナビ 京都支社

京都支社長 今泉 庄治

〒600-8008 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町10
京都ダイヤビル7F

TEL.075-212-8321 FAX.075-212-8320

総合情報サービス業

K.I.G

ゴルフ同好会
(KIG) だより

▶令和2年度第1回例会(第229回例会)結果

と き: 令和2年9月11日(金)

ところ: 鳴尾ゴルフ倶楽部

参加者: 21名(内 シニア11名)

優勝 木全 秀文氏(株)畑鐵工所)

準優勝 木下 豊氏(株)エクザム)

3 位 田畑 久夫氏(オリオン(株))

B G 賞 井畑 忠氏(株)清弘エンジニアリング)

☆ホールインワン 木全 秀文氏

▶令和2年度第2回例会(第230回例会)結果

と き: 令和2年10月8日(木)

ところ: 琵琶湖カントリー倶楽部

参加者: 16名(内 シニア8名)

優勝 田畑 久夫氏(オリオン(株))

準優勝 勝野 正己氏(株)エスジーエー)

3 位 桐野 茂氏(株)クリスタル光学)

B G 賞 林 良典氏(株)きんでん)

事業をつなぎ 人をつなぎ

想いを繋ぐ

京都信用金庫

事業継承のことは京信にご相談ください

京都市下京区四条通柳馬場東入立売東町7番地 TEL(075)211-2111



京都工業会会員企業における コロナ対策事例紹介 コロナをチャンスに ～新しいニーズの開拓～ 2

(株)クロスエフェクト
社長 竹田 正俊

株式会社クロスエフェクト

本社：京都市伏見区南寝小屋町57
社長：竹田正俊 設立：2001年
資本金：1000万円 従業員数：40名
プロダクトデザインからの開発試作品製作
及び臓器シミュレーター開発

はじめに

当社は2001年より京都市伏見区で、製品開発に必要となる高速試作品製作を行って参りました。工業製品の開発で培った技術を医療に役立てるべく、2010年より術前シミュレーション用の3D造形モデル開発に着手し、世界初となるオーダーメイド型術前診断機器の薬事承認に向けて開発を加速させています。

【N95相当医療用マスクの開発】

緊急事態宣言下の本年4月、医療用マスクの枯渇が危惧されていた時期に国立循環器病研究センター（大阪府吹田市、略称：国循）より純国産N95マスクの開発要請を受け、国循の西村邦宏予防医学・疫学情報部長及び白石公教育推進部長と、ニプロ株式会社（大阪府大阪市、以下ニプロ）と、ダイキン工業株式会社（大阪府大阪市、以下ダイキン工業）と弊社による4社連合の開発チームを結成し、新たに純国産の医療用高性能マスク（N95相当）を共同開発することとなりました。年内にも先ずは国内でのフィールドテスト開始を目指しています。

【背景】

N95マスク（※1）に代表される医療用高性能マスクは、新型コロナウイルスの世界各国での感染拡大により、全世界的に不足が続いています。特にエアロゾルが発生するような手技（気管内吸引、気管内挿管、下気道検体採取、歯科治療等）を伴う診療場面ではN95マスクの使用が推奨されますが、多くの市中病院では入手し難い状況が続いており、厚生労働省が、本来は使い捨てられるべきN95マスクについてやむを得ず再利用する等の例外的取り扱いについて事務連絡を発出せざるを得ない状況にあります。

【開発品の特徴】

このような状況下、国内の病院、そして海外でも広く活用できる医療用マスクを創出するべきと考えN95相当の医療用高性能マスクの開発を上記チームメンバーと共に着手しました。開発品は、①柔軟性のある素材を使用するとともに日本人の標準的な顔面形状を元に形状を設計することで口元に密着可能で長時間の連続装着にも耐えうる、②フィルターカートリッジ部分を着脱交換可能とし、本体部分が繰り返し利用可能であるという特徴を有します。また、DS2規格（※2）に準拠した評価試験を実施し、作製した試作品がN95マスクに相当する性能を示す結果を得ております（参考図）。将来的にはN95規格及びDS2規格の認証を目指します。

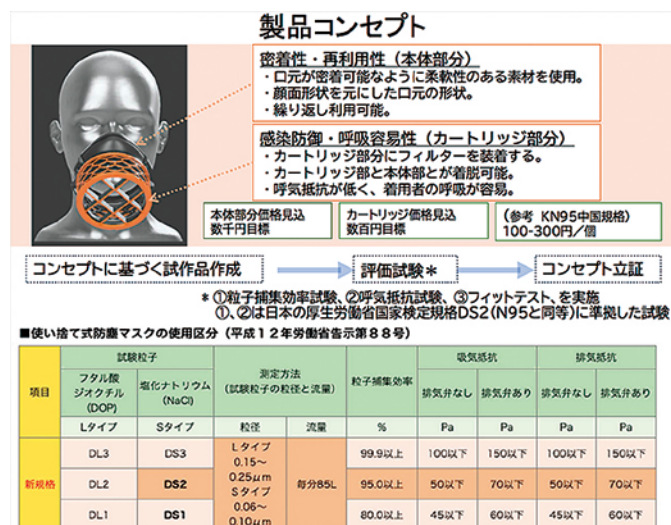
【開発チームの役割分担】

国循は、医療現場のニーズを元にしたコンセプト立案

を行うと共に、試作されたマスクを臨床現場で評価することでコンセプトの実証を行います。ダイキン工業は、フィルター開発及び化成品開発で培った技術を生かし、当該マスクに使用する高性能フィルターの開発を担います。ニプロは、樹脂製の医療用品製造で培った製造管理体制及び販売チャネルを活かし、最終製品としての医療用高性能マスクの大量製造・販売を担います。当社（国循内のオープンイノベーションラボ（※3）に入居）は、精密3Dプリンティングを応用した独自のキャスティング技術により大量生産に向けたマスクのデザイン・設計・試作及び金型の作成を行います。

【今後の展望】

医療施設に従事する医療従事者（医師・歯科医・看護師・就業歯科衛生士）は約172万人（平成30年版厚生労働白書・平成30年衛生行政報告例）存在し、多くの医療従事者が新型コロナウイルスの感染リスクに直面しています。当社を含めた開発チームは、いち早く医療従事者を感染リスクから解放すべく、これまでに無い全く新しい医療用高性能マスクの実用化を目指し、ひいては国民の健康福祉の向上に貢献したいと考えています。



- (※1) N95規格（米国労働安全衛生研究所が制定した呼吸器防護具の規格基準）を満たすマスク。5μm以下の微細粒子（飛沫核等）を95%以上捕集することで、着用者のウイルス等病原体の感染リスクを減じることができる。
- (※2) 産業用の使い捨て式防じんマスクに対し日本の厚生労働省が定めた規格。DS2規格を満たすマスクは、N95マスクと同様に5μm以下の微細粒子を95%以上捕集することが可能である。
- (※3) 国循と協働する外部機関を“一つ屋根の下”に結集した研究拠点。民間企業、大学などの外部機関が、循環器疾患等の様々な疾患の治療、健康維持・増進に関する幅広い分野における共同研究（産学連携活動）によるアカデミア発研究成果の社会実装を促進する。現在約20社（組織）が入居している。

京都工業会 ニュース No.404

2020年11月25日発行

発行 公益社団法人 京都工業会

〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78番地
京都経済センター 6階
TEL.075(353)0061 FAX.075(353)0065
URL: <http://www.kyokogyo.or.jp>
E-mail: info@kyokogyo.or.jp